

(環境省仮訳)

サステナビリティ・リンク・ローン原則

環境的・社会的に持続可能な経済活動をサポートする

ローン・マーケット・アソシエーション(LMA)

アジア太平洋ローン・マーケット・アソシエーション(APLMA)

ローン・シンジケーション&トレーディング・アソシエーション(LSTA)

Sustainability Linked Loan Principles

Supporting environmentally and socially sustainable economic activity



APLMA
Asia Pacific Loan Market Association

LMA | Loan Market Association

LSTA

はじめに

サステナビリティ・リンク・ローンは、環境的・社会的に持続可能な経済活動と経済成長を促進し、支援することを企図している。サステナビリティ・リンク・ローン原則（SLLP）は、グローバルシンジケートローン市場で活動する主要金融機関の代表から成る経験豊かな作業部会によって策定された。

SLLPの目標は、サステナビリティ・リンク・ローン商品の基本的特性を捉えるガイドラインを提供することにより、これらの商品の開発を促進し、その誠実性を維持することである。そうすることで、持続可能な開発をより広く推進することが、SLLPの目的である。SLLPは任意の推奨ガイドラインであり、市場参加者が取引の基本的性質に応じて取引ごとに適用するものである。

サステナビリティ・リンク・ローン商品を通じて、貸し手は、借り手のサステナビリティ・パフォーマンスに対する動機付けをすることができる。

SLLPは、市場で広く用いられることを想定しており、ローン商品の柔軟性を維持できるフレームワークを提供しており、サステナビリティ・リンク・ローンの発展と成長に照らして定期的に見直しが行われる。

サステナビリティ・リンク・ローンの定義

サステナビリティ・リンク・ローンとは、借り手による野心的かつ事前に設定されたサステナビリティ・パフォーマンス目標の達成への動機付けを与える、あらゆる種類のローン商品および/またはコンティンジェント・ファシリティ（ボンディング貸付枠、保証貸付枠、信用状等）である。借り手のサステナビリティ・パフォーマンスは、事前に定められる重要な評価指標（KPI）で測定されるサステナビリティ・パフォーマンス目標（SPTs）を用いて評価される。SPTsは外部機関による格付けおよび/または同等の指標¹で構成されたり、それが含まれたりする場合もあり、SPTsにより借り手のサステナビリティ特性の向上が測定される。

サステナビリティ・リンク・ローンに関する資金用途はその分類においては決定要因とはならず、ほとんどの場合、このローンは一般の企業目的で利用される。サステナビリティ・リンク・ローンでは、特定の資金用途を決定する代わりに、貸付条件と、関連する事前に設定したSPTsに対する借り手のパフォーマンスとを連携させることで、借り手のサステナビリティ特性を向上しようと試みる。例えば、サステナビリティ・リンク・ローンでは、借り手のパフォーマンスと、サステナビリティ・リンク・ローンの期間にわたるマージンの再決定とを連携させることが多い。場合によっては、グリーンローン原則²に適合するグリーンローンとサステナビリティ・リンク・ローンの両方に分類できるよう、ローンが組成されることもある。

サステナビリティ・リンク・ローン原則：核となる要素

SLLPは、以下の5つの核となる要素に基づき、全ての市場参加者がサステナビリティ・リンク・ローンの特性を明確に理解できるよう、フレームワークを定めている。

1. KPIの選定
2. SPTsの測定
3. ローンの特長
4. レポートニング
5. 検証

サステナビリティ・リンク・ローンの借り手は、そのKPIの選定理由（妥当性や重要性）とSPTsに向けた意欲（野心の度合い、サステナビリティ戦略に示した全般的なサステナビリティ目標との整合性、ベンチマーキング手法、当該SPTsを借り手がいかに達成するつもりか）を貸し手に明確に伝える必要がある。

借り手は、上記の情報を、サステナビリティに関するその包括的な目標、戦略、方針および/またはプロセスの関連の中で位置付けることを推奨される。また、借り手は、遵守を目指すサステナビリティ基準や認証があれば、それについても貸し手に開示することが奨励される。

1. サステナビリティ・リンク・ローンに関連するKPIのカテゴリー例の一覧については、付録1を参照。
2. グリーンローン原則は次のページで閲覧可能：
https://www.lma.eu.com/application/files/9115/4452/5458/741_LM_Green_Loan_Principles_Booklet_V8.pdf



1 KPIの選定

サステナビリティ・リンク・ローンは、ローンの期間を通じて借り手のサステナビリティ特性を向上させることを目指している。具体的には、1つ又は複数のサステナビリティ KPI を使って測定される借り手のパフォーマンスを貸付条件と連携させることにより、これが行われる。当該 KPI は、外部的なものでも内部的なものでもよい。

サステナビリティ・リンク・ローン市場の信頼性は KPI の選定にかかっており、このローン商品を成功させるためには、信頼性の低い KPI をまん延させないことが重要となる。

KPI は、借り手の中核的なサステナビリティ戦略とビジネス戦略にとって重要であり、その業界セクターにおける環境・社会・ガバナンス (ESG) の関連する課題に取り組むものである必要がある。

KPI には以下が求められる。

- 借り手のビジネス全体にとって妥当、中核的かつ重要であり、借り手の現在や将来の事業運営にとって高い戦略的意義を有する。
- 一貫した方法論に基づく測定又は定量化が可能。
- ベンチマーキングが可能。つまり、外部の参考値や定義を用いて SPTs の野心度合いの評価を可能な限り促進する。

KPI の適用範囲や境界と共にその明確な定義を提示し、算出手法、ベースラインの定義を明らかにするほか、可能な場合は業界標準に照らして KPI をベンチマークすることが求められる。

2 SPTsの測定

各 KPI に対する SPTs の測定プロセスは、借り手が取り組む用意のある野心度合いを示すものであるため、サステナビリティ・リンク・ローンの組成において重要である。

SPTs は誠実に設定され、貸付期間を通じて (それが適用される限り) 関連が保たれる必要がある。サステナビリティ・リンク・ローンの狙いの1つは、インセンティブによって野心的かつ望ましい変化を促すことであり、これが目標設定の基盤とならなければならない³。

SPTs は以下に示すように野心的である必要がある。

- 各 KPI の実質的な改善を表し、「現状維持 (BAU)」の軌道を超える。
- 可能な場合は、ベンチマークまたは外部の参照値と比較する。
- 借り手のサステナビリティ/ESG 戦略全体と整合する。
- ローン開始前又は開始と同時に定められたスケジュールに基づいて判断される。

市場参加者は、全ての目標も最近のパフォーマンスレベル、ならびに以下に示すベンチマーキング手法の組み合わせに基づいて定められる必要があることを認識する。

- 借り手自身の長期的パフォーマンス。可能な場合は、選択した KPI の最低3年間にわたる測定値の実績が望ましい。
- 借り手の同業他社、すなわち、入手可能な場合は同業他社の実績や、比較可能な、又は現行の業界やセクターの基準に照らした借り手の SPTs の相対的水準 (平均パフォーマンス、ベスト・イン・クラスのパフォーマンス)。
- 科学の参照。すなわち、科学に基づくシナリオや絶対水準 (カーボンバジェット等)、公式の国・地域・国際的目標 (気候変動に関するパリ協定や排出量ネットゼロ、持続可能な開発目標等)、ESG のテーマ横断的な関連目標を定めるための一般に認められた利用可能な最善の技術や他の代替の参照。

目標設定に関する情報の開示では、以下について明確に言及することが求められる。

- 目標達成のスケジュール。これには、目標観測の日数・期間、トリガーイベント、SPTs 評価の頻度が含まれる。
- 該当する場合は、KPI の改善を示すために選定された検証済みのベースラインや科学に基づく基準点、ならびに、当該ベースラインや基準点を利用する根拠 (日付・期間を含む)。
- 該当する場合は、ベースラインの再計算やプロフォーマ調整が行われる状況。
- 可能な場合は、競争上の検討事項や守秘義務に配慮した上で、借り手が SPTs 達成を意図する手段。例えば、その ESG 戦略の説明や ESG ガバナンスと投資、運営戦略の補足説明を通じて等、SPTs に向けてパフォーマンスを向上させると予想される主要な手段・行動の種類を明らかにしたり、予想される各貢献を可能な限り定量的に示したりすることにより。
- SPTs の達成に影響を及ぼしかねない、借り手の直接的な支配の及ばない他の重要な要因。

取引ごとに、借り手と貸し手のグループ間で適切な KPI と SPTs を決定、設定することが求められる。借り手は、1社又は複数の「サステナビリティ・コーディネーター」又は「サステナビリティ・ストラクチャリング・エージェント」を選定して、サステナビリティ・リンク・ローン商品を組成することを選択でき、これらのコーディネーターやエージェントは、指名された場合、KPI の交渉、SPTs の測定で借り手を支援する。

借り手は、関連するサステナビリティ・リンク・ローン商品が利用可能になるための前提条件として、その KPI と SPTs の適切性について、契約前の「セカンド・パーティー・オピニオン」等を介して、第三者⁴の意見を求めるよう推奨される場合がある。

3 借り手はまた、グリーンボンド原則 (GBP) が定める環境的・社会的影響評価の指標に関する既存及び継続中の取り組みにも注目する必要がある。関連する SPTs やその測定手法を識別する際に役立つ場合があるためだ。GBP の影響評価の指標は次のページで閲覧可能 : <https://www.icmagroup.org/green-social-and-sustainability-bonds/resource-centre/>

4 SLLP は、第三者評価機関に、各自の資格や経歴に係る情報と関連する専門性を開示し、実施した評価の範囲を明確に伝えることを奨励している。

第三者評価機関は、契約前のセカンド・パーティー・オピニオンにおいて、選定された KPI の妥当性、頑健性、信頼性や、提示された SPTs の理論的根拠と野心の度合い、選定されたベンチマークとベースラインの妥当性と信頼性、その達成に向けた戦略の概要の信頼性を、必要な場合はシナリオ分析に基づいて、評価することが推奨される。契約後に、境界、KPI 手法、SPTs 測定に重大な変更があった場合、借り手は、第三者評価機関にその変更の評価を依頼することが望ましい。

第三者の意見を求めない場合、借り手はその手法を検証するため、内部の専門性を示したり開発したりすることが強く奨励される。借り手は、そうした専門性（関連する内部プロセスやスタッフの専門性を含める）を完全に文書化することが望ましい。また、それにより作成された文書は、貸し手に提供するように求められる。

3 ローンの特徴

サステナビリティ・リンク・ローンの重要な特徴は、事前に選定・設定された SPTs の達成状況が経済的結果に関連していることである。例えば、関連するローン契約に基づくマージンは、借り手が、事前に設定された KPI で測定される事前設定の SPTs を達成した場合に縮小されることがあり、逆もまた起こり得る。

4 レポートニング

借り手は、可能であれば、少なくとも年 1 回、ローンに参加している機関が SPTs のパフォーマンスをモニタリングし、SPTs が野心的で借り手のビジネスに関連している状態に変わりはないかを判断するに足る最新の情報を、当該参加機関に提供する必要がある。

この市場では透明性が特に重要であるため、借り手はその SPTs に関する情報を公表するよう奨励される必要がある。こうした情報は、借り手の統合年次報告書やサステナビリティレポートに掲載されることが多い。ただ、常にそうであるとは限らず、必要に応じて、借り手はこの情報を公表するのではなく、非公開で貸し手と共有することを選択することができる。また、借り手は、貸し手や一般に報告する際に、基礎となる SPTs の算出手法や前提の詳細を提供することも奨励される。

5 検証

借り手は、各 KPI に対する個々の SPTs に照らしたそのパフォーマンスレベルについて、独立した外部の検証（例えば、監査人や環境コンサルタント、独立した格付機関等、関連する専門知識を備えた適格な第三者評価機関による限定保証や合理的保証）を少なくとも年に 1 度受けなければならない。

必要に応じて、SPTs に対するパフォーマンスの検証を公開することが推奨される。

セカンド・パーティー・オピニオンのような、推奨される契約前の第三者評価とは異なり、契約後の検証は SLLP の必須の要素である。

レポートニングが完了し、外部評価が実施されると、貸し手は、提供された情報に基づき SPTs と KPI に照らした借り手のパフォーマンスを評価する。

サステナビリティ・リンク・ローン原則

サステナビリティ・リンク・ローンは、環境的・社会的に持続可能な経済活動と成長を促進し、支援することを企図している。サステナビリティ・リンク・ローン原則（SLLP）は、グローバルシンジケートローン市場で活動する主要金融機関の代表から成る経験豊かな作業部会によって策定された。

付録 1—KPI

以下のリストは、KPI の一般的なカテゴリーと、このカテゴリーの KPI で測定できると考えられる改善の例を示している。

記載されているカテゴリーはあくまでも参考を目的としており、順不同。KPI には非常に多くの種類が存在するため、この付録では単に、関係者が参照できると考えられる例を提示していることに留意。

カテゴリー	例 ⁵
環境	
エネルギー効率	借り手が所有又はリースしている建物や機器のエネルギー効率の評価の改善。
温室効果ガス排出量	借り手が製造又は販売している製品、あるいは生産サイクル又は製造サイクルに係る温室効果ガス排出量の削減。
廃棄物処理	借り手が製造した製品、あるいは生産又は製造サイクルに係る液体・固形廃棄物処理の削減。
再生可能エネルギー	借り手が生成又は使用する再生可能エネルギー量の増加。
水消費量	借り手による節水。
持続可能な調達	検証済みの持続可能な原材料・物資の利用拡大。
循環経済	リサイクル率の上昇又はリサイクル原材料・物資の利用拡大。生産工場でのゼロウェイストの達成。
持続可能な農業と食料	持続可能な商品や質の高い商品（適切なラベルや認証を利用）の調達・生産の改善。
生物多様性	生物多様性の保全と保護の改善、及び生物多様性への貢献。
グローバル ESG アセスメント	借り手の ESG 格付けの改善や公認の ESG 認証の取得。
社会	
人権とコミュニティとの関わり	借り手の、「企業とその活動拠点となるコミュニティとの関係管理」の改善。「これには、地元住民の中核的人権と処遇に対する直接的及び間接的な影響の管理が含まれるが、これに限定されない。より具体的には、そのような管理には、コミュニティへの社会経済的な影響、コミュニティエンゲージメント、環境正義、現地労働者の育成、現地企業への影響、操業許可（license to operate）、環境的・社会的影響評価が含まれる場合がある ⁶ 」。
手頃な価格の住宅	借り手が開発する手頃な価格の住宅戸数の増加。

5. 関連する KPI は業界固有のものであり、これらの例はあくまでも参考を目的としており、全ての取引に適しているとは限らない。

6. これらの例は SASB のマテリアリティマップ（<https://materiality.sasb.org/>）© 2021 に基づく。米国のサステナビリティ会計基準審議会（SASB）財団の許可を得て転載。無断複製・転載禁止。

カテゴリー	例
データセキュリティ	「機密、秘密、専有の顧客データやユーザーデータの収集、保存、使用に係るリスク」の軽減。「これには、個人を特定できる情報（PII）やその他のユーザーデータ又は顧客データが流出しかねない、データ侵害のようなインシデントから発生し得る社会的問題が含まれる。データセキュリティは、ITインフラやスタッフのトレーニング、記録保存、法執行機関との協力、顧客データやユーザーデータのセキュリティを確保するために用いられるその他のメカニズムに係る企業の戦略、方針、慣行に対処する ⁷ 」。
従業員の健康と安全	「怪我や死亡、疾患（慢性と急性の両方）のない安全で健康な職場環境を作り出し、維持する」借り手の能力向上。「伝統的に、これは安全管理計画を実施し、従業員と請負業者のトレーニング要件を策定し、各自の慣行と下請け業者の慣行の定期的監査を行うことにより実現される。このカテゴリーはさらに、テクノロジー、トレーニング、企業文化、規制遵守、モニタリングとテスト、個人用防護具（PPE）を用いて従業員の身体的・精神的健康を企業が確保する方法を含む ⁸ 」。
従業員のエンゲージメント、ダイバーシティ、インクルージョン	多様性やトレーニング、継続教育に係る具体的な長期的目標の改善。
従業員のトレーニング	従業員の研修時間の増加。
ガバナンス	
企業倫理	「不正行為、汚職、贈収賄やファシリテーションペイメント（手続き円滑化のための小額賄賂）、受託者責任、倫理的要素を有し得るその他の行為を含む倫理的な事業活動をめぐるリスクと機会を管理する」借り手のアプローチの改善。「これには、経時的に、また管轄区域、文化により変化するビジネス上の規範と基準への感度が含まれる。企業倫理は、業界の最高レベルの専門的・倫理的基準を満たすサービスを提供する企業の能力に取り組むものであり、具体的には、従業員を適切に訓練し、従業員が偏見や誤解なくサービスを提供することを確実にするための方針と手続きを実施することにより、利益相反や虚偽の陳述、偏見、過失を回避することを意味する ⁹ 」。
強固なコーポレートガバナンスと透明性の構築	借り手のガバナンス委員会（監査委員会、報酬委員会、コンプライアンス委員会等）に所属する個人の専門性の向上。

7. 同上。
 8. 同上。
 9. 同上。